

●第56号へ一九七七年一二月

特集・低成長下横浜の行財政

低成長時代の地方財政——和田八束

地域経済の確立へ向けて——横浜の都市づくりへの

視点——大場浪男 横山 悠 斎藤淳一

横浜市政重点課題の変化と展望——佐藤孝昭

住民要求と自治体予算の橋渡し——大川 武

横浜市商業の特質——衣笠洋輔

行政研究——渡辺英男

公営企業会計への繰出金の考え方——石阪孝一

公園の管理と利用・その実態——大熊直人

草の根の国際交流——中塚敏昭

新書紹介——青木虹二

わがまち——その財政

●第57号へ一九七八年三月

特集・地区計画と住民

わがまち・わが区への関心——編集部

①区における地区カルテづくりの動き——千賀義二

②総合的な地区資料——大野紀雄

③地区計画・地区カルテへの発想の背景と期待——中区民の意識と

④調査から地区カルテづくりへ——生活調査研究グループ

地区カルテ・地区計画の課題——北小路 清

地区計画づくりの基礎的条件——高柳 実

①新しい街づくりの記録——海老名英樹 古川邦雄

②地区における基礎情報の収集公開システムのあり方

——松田泰征

③土地の確保とコントロール——越山清澄 梅谷泰久

他の都市の地区カルテ・地区計画

①市民がつくる政策統計——塩原恒文

②川崎市の地区カルテ——君嶋武胤

③地区カルテと地区計画のもつ意義——竹内礼三

地区計画をどう理解するか——高見沢邦郎

地区計画と市街地整備——日端康雄

行政研究——長島熱夫

住民意識にみる都市施設——加藤雄一

旭区の市街地形成課程と宅地指導行政——宅地開発

調査グループ

●第58号へ一九七八年六月

特集・都市における資料館

横浜の資料館像——遠山茂樹

座談会開港資料館と市民・運営法に望む——中村紀一

開港・明治期の横浜資料——花井清二良 松信泰輔 山本健次郎

①開港期の横浜内外資料——石井 孝

②明治期横浜の貿易とその資料——山口和雄

③日本の文書館——田村 明

④日本の文書館と海外資料——青木虹二

①英米の史料館——米川伸一

②ジャーディン・マゼソン商会文書のことども——服部一馬

行政研究

二つの文書館・藤沢・埼玉両文書館の実情——青木虹二

横浜市の文書保存管理について・いくつかの

問題点と改善の方向——高木邦雄、外

福祉の町づくりとその課題——杉山 彰

行政資料 横浜開港資料館設立に関する中間報告

文献紹介

最近のアメリカの都市政治研究の動向へ上——鳴海正泰

新書紹介——上野欣計

現代の公共問題と市民——●第59号へ一九七八年九月

●第59号へ一九七八年九月

特集・横浜の緑と保存——小沢恵一

都市における緑——防災と都市緑地 災害対策における緑とオープン

スペースのかかわりあい——川名俊次

都市の生態系と緑——川村優子

都市農業を考える——内山和年

緑の保全と創造——片田卓夫

都市公園の体系的整備 将来必要な公園を今から

どう確保するか——小泉信三

西欧都市の緑——福田隆蔵

横浜の緑と市民——濱中学

①郷土の生物教材を生かした自然保護教育——鈴木丈夫 横山賢太郎

②横浜の郷土と緑——石川幾太郎

行政研究

横浜の緑と市民の意識——第二次緑地環境

診断調査から——小林博志 伊藤正夫

〈横浜都市圏〉の地域特性——主成分分析法による

分析——システム分析手法研究会

文献紹介

最近のアメリカの都市政治研究の動向へ下——鳴海正泰

新書紹介——清水富二雄

園芸の時代

清水富二雄

1978年12月31日

編集・発行——横浜市都市科学研究室

横浜市中区港町1-1

電話——045・671-2011・2029 郵便番号——231

印刷——西岡印刷株式会社

横浜市南区吉野町5-22

●横浜市のデータ

人口——2,734,040人<53.11>

世帯数——819,739<53.11>

面積——426,39km²<53.11>

バー・キャバレー・酒場(野毛)——178店<52.3>

同上 (福富町)——135店<52.3>

同上 (横浜駅西口)——72店<52.3>

料理店(野毛)——83店<52.3>

同上 (福富町)——79店<52.3>

同上(横浜駅西口)——202店<52.3>